Ⅲ 共同利用研究

1. 概　　要

本研究所における共同研究は，昭和43年度以来，4年目に入ることになった。昭和46年度の共同研究は，前年度に引きつづき，運営委員に附属するかたちで，所外有識者と所内研究者の若干名とで構成されている共同研究専門委員会の議を経て，運営されることとなった（年報Vol.1，30頁の付記を参照）。同専門委員会は公募方針等の審議，申請の採否などを行なった。

公募は，Ⅰ研究課題とⅡ研究会とに分けて行なわれ，前者については，前年度に準じ，次のような設定課題が設けられた。

1. ニホンザル個体群の総合的研究

とくに群間関係，地域社会構造およびそれらを考慮に入れた群れの維持，変動，あるいは分布の研究に重点がおかれる。その目的のために行動，生態，社会の野外観察はもちろん，集団遺伝学的多型現象の解析，形態の群間比較等，多方面からの探究が望まれる。（前年度設定の「ニホンザルの地域ポピュレーションの総合的研究」に準じて設定）

2. ロコモーションとの関連における霊長類身性の比較形態学的研究

系統群間にみられるロコモーションの違いと，それぞれがもつ身性上の比較形態学的特徴との関連を重要視し，霊長類進化の各段階を理解し，ひいては，直立二足歩行の獲得を中心に成立したと考えられるヒト化の解明に資することを目的とする。具体的には 1)運動器官，とくに四肢の比較解剖学的，ならびに生物力学的比較研究と，2)筋，とくに二足歩行時における下肢筋の活動様式に関する筋電図学的比較分析との二方向があげられる。（前年度設定の「霊長類のロコモーション――特にホミニゼーションの観点から――」に準じて設定されたもので，この年度は，とくに身性の比較面に重点をおくこととし，ホミニゼーションに関しては，平行して研究会主題としてもとりあげられることとなった）

3. サルの生理学的適応能

霊長類における気候馴化の機序に関する研究の一環として，エネルギー代謝と体温調節機序の問題をとりあげる。すなわち，温度，湿度，などの環境条件の変動に対して示す循環系，呼吸系，体温などの生理的反応の変化を調べ，あわせて視床下部調節系の活動を調べることによって神経系のもつ役割についても明らかにする。（前年度設定の「霊長類の生理学的適応能」に準じて設定された）

4. 主としてニホンザルを対象とした行動の研究

今年度はとくに野外と実験室に共通した行動研究の方法論の確立をテーマとし，たとえば，指標となる行動の発見，行動パターン測定の定量化，行動分析の方法のスタンダードの設定等に関する研究を行なう。昨年11月，設定課題「ニホンザルの発達段階」参加者，自由課題のうち行動に関するものを選んだ方々，および所内の対応者を中心として行動と発達に関する研究会をもった。その結果，行動の研究において，「発達」をはじめ重要な問題は多いが，現在もっとも必要なものはまず「方法」であるとの結論が出た。今年度のテーマは，その結論にもとづくものである。

実施結果を総括して記せば次のとおりである。

Ⅰ．研究課題について：公募に対する申請状況，申請に対する採択状況，ならびに採択研究に対して予定された旅費・研究費（単位万円）は，次のとおりである。

A．設定課題

1. ニホンザル個体群の総合的研究
   申請12件（14名）採択7件（7名）　旅費67.9万円・研究費19.9万円
2. ロコモーションとの関連における霊長類身性の比較形態学的研究
   申請3件（4名）　採択2件（2名）　旅費8.6万円・研究費21.0万円
3. サルの生理学的適応能
   申請4件（13名）　採択3件（12名）旅費14.9万円・研究費21.0万円
4. 主としてニホンザルを対象とした行動の研究
   申請5件（5名）　採択5件（5名）旅費37.4万円・研究費31.2万円

B．自由課題

申請30件（30名）　採択18件（18名）　旅費103.9万円・研究費109.3万円

Ⅱ．研究会について：公募に際しては，特に研究所で設定した主題は提示されなかった。公募後，研究所で諸情勢を検討し，次のような主題を設定した。予定された旅費（単位万円）とともに列記すれば，次のとおりである。（各研究会の内容については後を参照）

(1) 行動観察の基本的方法と定量化の問題　旅費11.8万円
(2) ホミニゼーション　旅費12.6万円
(3) ニホンザルの行動上の個体性について　旅費 7.0万円

(4) 海外における霊長類研究の進め方　旅費 4.7万円
(5) 幸島の群れの研究に関する総合的アプローチ　旅費 5.0万円
(6) インド亜大陸における哺乳類相の変遷と地史（追加）　旅費 0.4万円

付　記

1）以上と平行して，運営委員会規程改正の検討が行なわれ，昭和46年7月6日づけで，次の如き規程が制定された。

京都大学霊長類研究所運営委員会規程

第1条　霊長類研究所の運営に関する重要事項について所長の諮問に応ずるため，霊長類研究所に霊長類研究所運営委員会（以下「運営委員会」という）を置く。

第2条　運営委員会は，次の各号に掲げる者で組織する。
1　京都大学専任の教官のうちから総長の命じた者若干名
2　学外の学識経験者のうちから総長の委嘱した者若干名
3　事務局長

2　職務上委員となる者のほか，委員の任期は2年とする。ただし，欠員を生じた場合における補欠の委員の任期は，前任者の残任期間とする。

3　職務上委員となる者のほか，委員は再任されることができる。

第3条　所長は，運営委員会を招集し，議長となる。

2　所長に事故あるときは，あらかじめ所長が指名した委員が議長となる。

第4条　運営委員会は，委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

第5条　運営委員会は，必要があるときは，委員以外の者の出席を求めて意見を聞くことができる。

第6条　運営委員会の事務を処理するため，運営委員会に幹事を置き，事務長をあてる。

第7条　前各条に定めるもののほか，議事の方法その他の必要事項は，運営委員会が定める。

附　則

この規程は，昭和42年6月1日から施行する。

附　則

1　この改正規程は，昭和46年7月6日から施行する。

2　この改正規程施行後最初に命ぜられまたは委嘱される委員の任期は，京都大学霊長類研究所運営委員会規程第二条第二項本文の規定にかかわらず，昭和48年6月30日までとする。

2）以上の規定にしたがって，次期（第3期）運営委員会構成が進められ，次の如く委員が決定された。

所内委員（規程第2条第1項第1号による学内委員に相当：岩木光雄・河合雅雄・川村俊蔵・時実利彦・室伏靖子（任期昭和46.8.16—48.6.30）（以上5名）

所外委員（規程第2条第1項第2号による学外委員）：今西錦司・葉山杉夫・水原洋城・渡辺直経（任期46.8.16—48.6.30）・伊沢紘生（外国出張中により着任がおくれ，任期47.3.16—48.6.30）（以上5名）

（文責　岩木光雄）

2. 研究成果

設定課題 a. ニホンザル個体群の総合的研究

高宕山自然群の遊動生活—中間報告

岩野泰三・四元仲子（東大・理・人類）

ニホンザル自然群の遊動生活については，積雪期の越冬についての生態学的研究以外はほとんどなされていない。そのため，最も一般的な棲息地である暖帯林での遊動生活を明らかにしたいと思った。

1. 調査期

本調査の目的は，ニホンザル自然群の遊動生活の季節的変化を知ることである。季節として次の5期が選ばれた。

冬期（発情期）：'70年12月12日～25日，厳冬期：'71年1月24日～2月14日，春期（出産期）：'71年4月25日～5月12日，夏期：'71年7月3日～30日，秋期：'71年9月30日～10月21日。

5期の全調査期間は104日，調査日数87日（調査期間中の雨天・休養日を除いたもの），観察日数68日，総観察時間369時間である。

このうち冬期の調査については，人類学雑誌に予報として報告した。

2. 各季節の遊動の基本型

調査全期間を通しての遊動域は第1図に示した通りである。これは遊動路の最外周を結んで図示したものであるが，餌つけ小舎の高梨正之氏の観察によれば，8月～9月には遊動域は餌場の北にもやや広がるとのことである。これ以外は，この第1図に示した広さでI—B群の遊動域はほぼ完全に覆われている。ただし，'69年秋には第1図の遊動域最東端よりもさらに東の人家周辺に出